

令和元年 第1回 郷土史教室

雫石地区の歴史探訪 (その1)

新しいコースで史跡や伝説の地も訪ねます



◀雫石城跡に建つ雫石八幡宮

町教委と滴石史談会の共催による恒例の郷土史教室を下記により開催します。
今回は、小岩井農場の西南にある雫石地区内の三つの開拓地の歴史を実際の開拓者等のお話しをお聞きしながら見聞します。皆様のご参加をお待ちしています。

記

1・日 時 6月22日(土) 8:45 中央公民館集合

事前説明後 9:00 出発～ (昼食) ～15:00 中公・解散

2・行 程 (マイクロバス利用)

中央公—長山街道分かれの文化財石碑—仁沢瀬橋—網張街道 (小岩井駅～農場旧入口～重要文化財の本部事務所)—沼返 (地名伝説紹介)—「七ツ森開拓」 (地域公民館でWC休憩)—「陽和郷」・「中沼」の両開拓地の歴史を現地解説—晴山の餓死供養塔— (中央公・昼食)



午後 —遮光器土偶出土の桜沼遺跡と「名子」地名の由来—生森一里塚—七ツ森払下げ記念碑—御所野原の開田と水路 (地域公民館でWC休憩)—「古舘」と雫石城跡—館坂—中央公

3・募集定員 15名 (町民及び町内勤務者対象・先着順。定員になり次第締め切り)

4・参加費用 ひとり800円 (昼食・資料代)

5・募集期間 6月15日(土)9:00～19日(水)まで

6・お問い合わせ・申込み先

町生涯学習スポーツ課 (中央公民館内)

電話 692-4181

なお、「雫石地区その2 (下～上町～高前田方面)」は別途 7月13日(土)に実施。

6月19日(水)午後2時から「歴史サロン」開催

毎月第3水曜日は歴史サロンの日です。6月は19日が開催日です。

今回の話題 (前半1時間) は「七ツ森の歴史」。後半1時間はテーマなしで自由に歴史談義をしていただきます。時間は14:00～16:00。場所は中央公民館2階視聴覚室です。ご来場をお待ちしております。

【 サロン計画の希望アンケートを提出される方はこの日にご持参ください。 】

第 53 回定期総会を開催

令和時代に向けて新年度事業、予算を決定

月一回の歴史サロンの充実を図る



第 53 回定例総会を令和への改元を 4 日後に控えた 4 月 27 日(土)に中央公民館で開催しました。午後 1 時 30 分からの総会には会員 61 人のうち 40 名が出席しました。以下、その内容をお知らせします。

大村会長が新年度の抱負を述べる

総会の冒頭、大村昭東会長は「会員の皆様のおかげで 30 年度事業は順調に進んだ。

特にも 9 月に開催した <戊辰戦争 150 年>—雫石・橋場口の戦を継ぐ行事 は成功裏に終えることができた。戊辰戦争における県内唯一の陸戦の戦場となった地として、その全容を町民と共に再確認できたことは意義があったと考えている。会員各位のお取り組みとご尽力に感謝申し上げます。

30 年間続いた平成から令和へと改元される本年度は従来からの恒例事業のほか、<史談会本来の姿>とも言える——**会員各人が地元の歴史を思い思いに語り合え、他会員の郷土の話に耳を傾ける**——機会をつくるため、毎月第三水曜日開催の歴史サロンを充実したい。今年 10 年目となる少年少女歴史教室にも力を入れる。また秋には久々に県外への宿泊研修も計画している。記念すべき令和元年度も会員といっしょに歩んで行きたい。」とあいさつしました。

作山町教育長から「激励の言葉」いただく

来賓の作山雅宏町教育長が「町教委では日頃から各方面において貴会のお世話になっており深く感謝申し上げます。滴石史談会のように活発な活動を展開している歴史愛好団体は県内にそう多くはないと思っている。少なくとも近隣市町では聞かない。この会の活動に注目している周辺市の歴史愛好者もいるのではないか。これまでの半世紀以上にわたる活動実績に敬意を表するとともに、今後さらなる郷土雫石の歴史の掘り起こしと情報発信、そして地域社会への還元を期待する。」と激励の言葉を述べてくださいました。もうひとつの方の来賓として町教育委員会生涯学習スポーツ課の徳田秀一課長が紹介されました。

事業経過、収支決算が満場で承認される

次いで、堂前正彦会員(西山野中)を議長に選出。同議長の的確な進行で議事が進められ平成 30 年度の事業経過、収支決算が満場で承認されました。

また秋田県・北浦史談会との交歓会や 10 年目を迎える少年少女歴史教室など、令和元年度の各種行事を盛り込んだ事業計画案と予算案も審議が行われました。

質疑では、「当会の行事、たとえば「会員研究発表会」や冬季間の「歴史講座」の配付資料は、興味深くかつ貴重な資料が多い。これからも全会員に配付してほしい。」との要望が出されました。これに対して事務局から「そう思っただけであれば嬉しい。これまででもそうであったが、今後も欠席者にも資料を配付していく考えだ。」と回答がありました。

このあと採決が行われ両提案は全員の拍手でいずれも可決されました。

<詳しくは「総会資料」をご覧ください。>

なお総会後は過去最多となる 31 名の会員が来賓の作山教育長、徳田課長を囲んで会費制の懇親会を開き、歴史談義で和やかに相互の親睦を図りました。

森林軌道跡探訪に16人

90～70年前の木材運搬トロッコの活躍を知る

今年度最初の公開行事「歴史ミニ講座…雫石の森林軌道…入門編」を5月19日（日）に開催しました。会場は町内西安庭にある町歴史民俗資料館とその周辺の森林軌道「鶯宿線」の遺構。参加者は町内外から16人（うち会員7人）、他に町教委1人、御所湖広域公園1人の合計18人。会員の丸山 壘氏が講師を務め、同じく会員の奥村英則氏が資料館内に展示されている森林軌道関係の古い写真や地図資料などを解説しました。



資料館内での丸山会員の講義

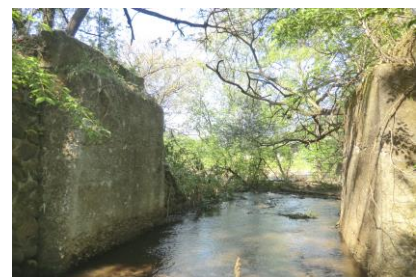


奥村氏（会員）の資料解説

屋外の軌道遺構も見学……「懐かしさこみ上げた！」と好評

今回の行事は、町歴史民俗資料館に「森林軌道の関連資料展示ケース」があり、また資料館の近くにかつての森林軌道の橋台が残っていることに着眼しく町歴史民俗資料館と滴石史談会の連携事業として実施しました。資料館を所管する町教育委員会が後援団体となって資料館を開放、御所地区の軌道敷跡巡り」のためのマイクロバスを提供、御所湖広域公園管理事務所（指定管理者；小岩井農牧株）が協力団体となって資料をカラー印刷してくれました。

参加者は、最初に資料館近くの安庭橋の北側湖岸に残る森林軌道「鶯宿線」のコンクリート製の橋台（両側）を見学。軌道が敷設された昭和2（1927）年頃のこと、また付近に残る道路跡を見ながら昭和32（1957）年頃開始した籬野地区大規模開田や昭和35（1960）年頃から始まった御所ダム水没対象者による「高台移転対策」の状況との関連の説明を聴きました。 【右写真・（仮称）安庭跨道橋台の遺



構】

資料館内では丸山会員が「雫石の森林軌道」の概要について資料を基に「当時良材とされた『鶯宿杉』の雫石駅・貯木場までの搬出のために開設され大いに活用された。重要路線だったため軌道線路敷も堅固で橋台もコンクリート製と耐久性が高いものが多く、今も数多く残っている。」などと詳しく説明。一方、奥村会員は館内の展示物や写真、さらには当時の軌道路線が写っている終戦直後の雫石の航空写真パネルを示し「軌道延長がかなり長く、戦中戦後、雫石の産業の中で圧倒的な存在感があった。」と語りました。

一行はさらに、マイクロバスで御所地区の「片子沢（矢川寄り）」と「榭沢・川井神社前」の2か所を巡り、軌道敷の痕跡を確認しました。参加者の中には少年期に実際に軌道敷を歩いたり軌道橋（きどぼし）を自転車で渡った人、かつて軌道敷と知らず歩いたが今日説明を聞いてわかったという人もおり、「懐かしさがこみあげてきた…」と感激の面持ちの人もいました。



「町内の森林軌道跡を巡る見学会」は11月9日（土）にも開催する予定です。内容は現在検討中です。

次回もご期待ください。

＜参加者による資料館前での記念写真＞

※おことわり…森林から伐り出した木材を運搬するための林道のうち、牽引方法により、機関車によるものを

「森林鉄道」、人力あるいは牛馬によるものを「軌道」と区分します。雫石町内の路線はほとんどが「森林鉄道」に区分されますが、町内では開設当初から「(森林) 軌道」と呼ばれて町民に馴染みがあるので、滴石史談会では行事の際などにはあえて「森林軌道」としています。

3つの史跡、スッキリ！ 生森一里塚ほかの草刈り奉仕行方

去る5月26日（日）朝、会員有志で、町内の史跡のうち仁佐瀬の「長山街道分かれの石碑群の周辺」と生森（おもり）一里塚一対、高前田一里塚一対の三か所の草刈りを行いました。

当会ではこの作業を以前から行っていました。町からの運営費補助金を自発的に返上した平成22（2010）年度以降は事実上の奉仕活動として実施しているものです。いまでは、「文化財愛護活動」の一環として当会の恒例事業となっています。（今回の従事者は5人でした。）

今回は、ことし最初の作業でしたが、今後草の伸び方などを見ながら、あと3回程度の作業を予定しています。



北浦史談会との交歓会 「大蔵神社」の絵馬拝観をメインに計画

26回目となる北浦史談会（旧田沢湖町）との交歓会について話し合う打合わせ会を5月24日（金）に雫石町中央公民館で開きました。北浦史談会からは平岡三郎会長ほか3名、当会からは大村会長をはじめ4人の役員が出席しました。

協議の結果、ことしの交歓会は7月25日（木）午前9時から旧田沢湖町で開催することになり史跡等の見学は、旧田沢湖町神代（じんだい）地区に鎮座する大蔵神社です。ここはもともとは「大蔵山観世音（馬頭観世音）」として馬産振興に努めた戸沢氏、芦名氏の崇敬を集めた仏堂ですが、明治の神仏分離令により大蔵神社と分かれ、双方大いに栄えた時代もありました。しかし建物の老朽化が激しく平成7年、麓に移築して現在に至っています。全盛時代の膨大な数の「絵馬」は現在は新社殿に移されており、岩手県（特に滝沢市）の農家や家畜商からの寄進絵馬も多いという情報もあります。今回の見学でこれを見ることができるよう計画を進めています。

会員同士の交流会（懇親会）は、あきた芸術村（旧わらび座）の温泉館「ゆぼぼ」で開催します。会費など詳しい内容や日程は内容が固まり次第お知らせします。ご期待ください。

あとがき …… 久々の会報をお届けする。もちろん“令和初”である。わずか4ページだが、力をこめた。1面で紹介したく雫石地区の郷土史教室。 「セツ森」をはじめ3つの開拓地を訪ね実際の開拓者たちのお話を聞き往時を偲ぶ。新しい資料も見つかった。「このままでは消えゆくのみ…」と開拓者たちも真剣だ。どこまで残せるか、伝えられるか、力を尽くしたい。（S）

